



オリパラ通信 Vol.10

パラリンピックの 原点とは？

東京1964大会から半世紀を経て、日本に再びパラリンピックがやってきます。パラリンピックは、1948年イギリスの病院内で開催された、リハビリ中の兵士による車いすアーチェリー大会からはじまりました。

第二次世界大戦で脊髄に損傷を受けた兵士を治療するため、イギリスのストーク・マンデビル病院に脊髄損傷科が開設されました。そこで、初代科長となったのが神経学者の医師「ルードウィヒグットマン博士」です。

病院では、負傷した兵士が一日も早く車いすでの生活に適応し、社会復帰ができるよう促していました。が、「うつ状態」の兵士が多く、リハビリの効果はあられずにいました。グットマン博士は、そのような兵士たちの精神状態にいち早く気づき、心のケアも必要だと考えます。

そこで、遊び感覚で楽しみながら出来るダーツやアーチェリーなどのスポーツをリハビリに取り入れたところ、兵士たちのモチベーションが高まり、たちまち目に輝きを取り戻しはじめました。まだ、患者がスポーツをする、ということも思いつかなかった時代のことでした。

スポーツがもたらす効果は絶大だと確信したグット

マン博士は、ロンドン1948オリンピック大会の開会式の日、病院内で16人の車いす使用者によるアーチェリー大会を開催しました。これがパラリンピックの原点です。そして72年後の東京2020大会では22競技4千400人が参加する、スポーツの祭典へと発展します。

**失われたものを
数えるな、
残された機能を
最大限に活かせ**

「パラリンピックの父」グットマン博士が残した言葉には、障がいがあっても諦めることなく、前向きに挑戦して生きて欲しい、という励ましのメッセージが込められているのです。

東京は世界で初めて
2回目の夏季パラリンピックを
開催する都市だ〜ご!

